

平成28年奈良県地価調査 結果概要

本県の地価は、緩やかではあるものの依然として下落基調にあり、全用途（林地除く。）の対前年平均変動率が▲0.6%（昨年▲0.6%）となった。

〈住宅地〉

- 平均では、▲0.7%（昨年▲0.7%）となり、8年連続の下落となった。変動率は、全国14位となった。
- 昨年からの継続調査地点（201地点）のうち、30地点で上昇、34地点で横ばい、137地点で下落となった。
- 昨年に引き続き、奈良市、生駒市、香芝市及び斑鳩町の4市町の平均変動率が上昇している。利便性・環境とも良好な人気のある住宅地を中心に需要が集中する傾向が見られる。

〈商業地〉

- 平均では、0.0%（昨年▲0.1%）となり、平成20年から8年ぶりに、横ばいに転じた。変動率は、全国15位となった。
- 昨年からの継続調査地点（44地点）のうち、17地点で上昇、11地点で横ばい、16地点で下落となった。
- 奈良市、橿原市、生駒市、香芝市及び斑鳩町の平均変動率が上昇しているが、県中南部においては、周辺大型店舗への顧客流出等により、既存商業地において引き続き下落傾向にある。

〈工業地〉

- 平平均では、0.7%（昨年1.0%）となり、3年連続の上昇となった。変動率は、全国9位となった。
- 昨年からの継続調査地点（4地点）のうち、2地点で上昇、1地点で横ばい、1地点で下落となった。
- 工業地の平均変動率が上昇したのは、西名阪自動車道の大和まほろばスマート I.Cの全面開通や国道163号の整備等により交通の利便性が向上したことなどが要因として見られる。